



千葉県が取り組む絶滅危惧種対策事業 ～シャープゲンゴロウモドキ・ミヤコタナゴ・ヒメコマツを例に～ 大木淳一（千葉県生物多様性センター）



シャープゲンゴロウモドキ

千葉県：最重要保護生物（A）
国：絶滅危惧ⅠA類（CR+EN）



♂ 体長約 3cm

・開発、水田の近代化、農業、マニアによる捕獲、外来生物（アメリカザリガニ等）の侵入などが原因で激減。
・関西型と関東型に分かれる。関東型は千葉県内のごく限られた場所で生息。
・「国内希少野生動物種」（種の保存法）に指定。



卵

セリに産卵



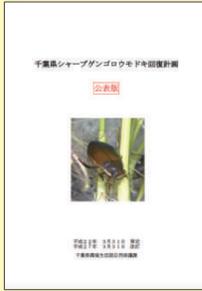
幼虫



オタマジャクシを捕食



千葉県シャープゲンゴロウモドキ保全協議会



回復計画策定

- 千葉県 環境生活部自然保護課
- 関係自治体
- 鴨川シーワールド 開発展示課
- 千葉県シャープゲンゴロウモドキ保全研究会
- 地元保全団体
- 千葉県立中央博物館

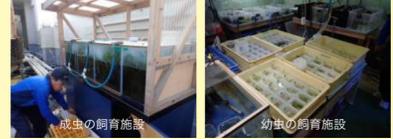
個体群動態の把握



個体識別番号をつける

番号がついた個体

系統保存の実施と飼育技術の開発



成虫の飼育施設

幼虫の飼育施設

生息環境の保全



人力で滞水池を創出

水源の環境調査

イシガイ類侵入防止柵・監視カメラの設置

畦の決壊部の補修

普及啓発の推進



地元の小学校で授業

鴨川シーワールドで生体展示

- 遺伝的多様性の解明
個体群内の遺伝的多様性の把握
再導入のための系統保存個体の遺伝情報把握
- 外来生物の駆除
アメリカザリガニは2011年9月以降未確認
(畦波シートやアナゴカゴを使用)

ミヤコタナゴ

千葉県：最重要保護生物（A）
国：絶滅危惧ⅠA類（CR）



- コイ科タナゴ亜科の日本（関東地方）固有種
- 「天然記念物」（文化財保護法）、「国内希少野生動物種」（種の保存法）に指定



- ～1960年代（高度経済成長）→環境の激変
- ～1990年代（種の保存法指定前後）→開発、外来種、密漁等
- 現在（2000年代以降）→生息域の縮小（管理放棄）、密漁

上記による二枚貝の減少が最大の要因
(北村 2008)

生息地の特徴と問題点（1）

- 生息地はすべて農業用水路（排水路）**
- 各水系の上流部の小水路の限定された区間
 - 自然護岸、二面あるいは三面護岸
 - 護岸の区間も二枚貝が（かるうじて）生息



- 過疎・高齢化の進行
- 水路や農地の管理放棄の増加

生息地の特徴と問題点（2）

- 二枚貝の減少と外来種の問題**
- 環境の悪化による産卵母貝の減少
 - 国内外の外来種（アメリカザリガニ、タイリクバラタナゴ、ヤリタナゴなど）の侵入・増加
 - 密漁・密放流



千葉県の保全に対する取組



【事業の位置づけ】
「ミヤコタナゴ保護増殖事業計画」に基づき、関係者からの委託事業として、「希少野生動物種保護増殖事業（千葉県ミヤコタナゴ）」を実施

【事業の目的】
千葉県内ほかにおいて、ミヤコタナゴの保護増殖を図る

事業の関係者（主要メンバー）



成果① 生息環境の維持・改善

- 草刈り、護岸等の補修、底質の改善、復田などの対策を関係市町と連携して実施



健全な生息区間を維持・保全

成果② 系統保存による絶滅の回避

- 県内外の5機関と連携して、全系統を維持

- 千葉県内水面水産研究所
- (公社) 観音崎自然博物館
- いすみ市保護増殖施設
- 鴨川シーワールド
- すみだ水族館



成果③ 生息状況の確認

- ミヤコタナゴや二枚貝の生息状況を把握



観音崎自然博、地元紙町と連携して実施

成果④ 普及啓発の推進

- 自然観察会の開催、水族館等での展示



成果⑤ シンポジウムの開催



成果⑥ 各生息地の系統関係の把握



ヒメコマツ

千葉県：最重要保護生物（A）

通称（別名）ゴヨウマツ



樹高最大 30m

ヒメコマツは葉が5枚

千葉県のヒメコマツ野生株の激減

- 1970年頃まで 数千本が自生
(その後、急激に枯死が進む)
1977 スミ沢小集団で
71本のうち46本が枯死
1980年代 500本程度
(藤平1986、大沢1988の調査による)
2000-2001 98本
(房総のヒメコマツ研究グループによる)
現在 75本



千葉県ヒメコマツ保全協議会（H20年発足）

- 千葉県環境生活部自然保護課
- 林野庁 関東森林管理局 千葉森林管理事務所
- 千葉県 農林水産部 中部林業事務所 農林総合センター 森林研究所
- 君津市 経済部 農林振興課
- 房総のヒメコマツ研究グループ
- 東京大学 千葉演習林
- 千葉県立中央博物館



考えられる衰退要因

- 暑さと乾燥
- マツ材線虫病
- かさぶたがんしゅ病
- 森の暗さ
- (実生苗の採取・乱獲)



マツノサイセンチュウ

マツノマダラカミキリ



衰退をとめる手だては まだない

今ある野生株の遺伝子を残すため、接ぎ木苗・実生苗を手分けして栽培



ヒメコマツ 系統保存サポーターにご協力をお願いします。

【サポーター企業一覧】

旭硝子株式会社 千葉工場、大網白根工場
アソネット株式会社
伊勢化学工業株式会社
鹿嶋山ビューホテル
鴨川山コーポレーション
東武環境化学株式会社
セイコーインスツル株式会社
大野薬業所、葛城薬業所、高塚薬業所
WJ工業
メテオラボ
中外テクノス
日清製糖グループ
東アールケイ
東アールケイ
東アールケイ
東アールケイ
東アールケイ